

○議長（竹島ユリ子君） 3番 山崎知信君。

○3番（山崎知信君） おはようございます。山崎です。よろしくお願ひします。

私は、温泉と運動を活用した健康増進事業について伺います。

国の重点分野創出交付金事業447万円を活用し、湯めぐごち温泉で入浴と運動を利用した健康増進プロジェクト「温泉美人養成講座」を5月11日火曜日から7月13日火曜日の10週間、約1時間。対象は30歳以上、70歳ぐらいで先着25名で実施しております。

これは、日本一健康な村を目指す舟橋村が温泉施設「湯めぐごち」と委託契約を結び、健康増進を図るための健康プロジェクトを推進するものであり、21世紀の健康課題として、がん、寝たきり、認知症の3つが最も大きな問題である。

私も一緒ですが、前原議員もこれから言うことはよく聞いてください。これらすべて喫煙や食べすぎ、運動不足、ストレス過多などの誤った生活習慣が主な原因とされています。最も健康への影響が大きいのは、生活習慣と環境で55%、遺伝的要因が35%、医療サービスが10%であり、これらを防ぐため天然温泉の温熱効果を利用し、適切な健康増進と疾病予防の知識を学び、病気に対する予防を推進するという非常に注目すべき事業だと思います。

今、どれだけ多くの方が健康に関心を持っているか。健康サプリメントやダイエット食品等の売り上げは、以前に比べて非常に伸びている傾向にあります。しかし、5月から始まった第1回目の健康美人養成講座では、定員25名に対し、13名の応募しかなく、注目されているプロジェクトにしては、いささか物足りなさを感じます。この事業では、湯めぐごちに委託しているとはいえ、主体はあくまでも舟橋村であり、事業者に頼り過ぎているのではありませんか。村としてPR不足ではないですか。どれだけ素晴らしい企画をしても、それが住民に伝わらなければ何の意味もありません。そして何よりも講師に来ていただいています先生にも大変失礼だと思います。

私は去る6月8日火曜日のセミナーをちょっと聞いてきました。その内容は、整形外科指導員の先生が骨粗しょう症の講義をされておりました。背が2センチ縮むと注意、4センチ縮むと要注意でございまして、そのためにはどうしたらいいかという講義で、13人の受講者の方が熱心にメモっておられました。講師宮田医学博士、アピア専任トレーナー、整形外科指導医など3人の人たちによるセミナーが始まっていますが、本当に村として日本一健康な村をつくるのであれば、もっと多くの住民にPRし、参加者を

募るべきだと考えますが、村長の考えを伺います。

○議長（竹島ユリ子君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 3番山崎議員のご質問にお答えします。

温泉美人養成講座についてでございます。議員がおっしゃったとおり、この事業は、温泉と運動を活用した健康増進事業を株式会社M&Bに委託して実施するものであります。また、この事業は平成21年度国の重点分野雇用創出事業でありますので、この事業推進に当たっては、委託先のM&Bでは、新たに1名の事務員を雇用していただき、同時に専門知識を有する医師と契約していただいた上で、実施することになっておるのであります。

事業内容につきましては、1クール10回を年4回実施されることになっております。1クール10回の主な講座の骨子は、最新、最適な健康増進と予防医学の知識を学ぶプログラム。温泉入浴、サウナ、岩盤浴などによる温熱効果についてのプログラム。ウォーキングやストレッチを中心とした効果的で無理のない運動プログラム。自宅でもできる食事療法、サプリメントの知識、簡単でよく効くストレッチや運動プログラムなどが盛り込まれているのであります。

この講座では、21世紀の三大健康課題になっております、がん、寝たきり、認知症を取り上げまして、喫煙や食べすぎ、運動不足、ストレス過多などの誤った生活習慣が主な原因とされていることから、天然温泉の温熱効果を利用し、適切な健康増進と疾病予防の知識を学んで、よりよい生活習慣を実践するという目的で、5月11日から実施されているところであります。

今日、皆さんご承知のとおり、3人に1人ががんに罹患すると言われております。何よりも予防が大切であると私は思っております。

日本一健康な村づくりには、予防こそが最大の防御であり、この講座の役割は、極めて大きなものであると認識しているところであります。本村の健康増進事業の一つに位置づけいたしまして、総合的な住民の健康づくりとして、今後とも実施してまいりたいと考えておるところでございます。

しかしながら、議員ご指摘のとおり、5月から実施いたしております第1回温泉美人養成講座には、定員25名に対して受講者が13名と少なく、PR不足であることは否めません。この後、8月、10月、12月スタートする講座がありますので、多くの村民にPR活動を行い、多数の受講者を募りたいと考えております。

その具体的手法といたしましては、村のホームページや広報紙はもちろんのこと、図書館や舟橋会館でのポスターの掲示、あるいはまた住民健診等での保健師による直接のPR、さらには、社会福祉協議会を通じてのPRを積極的に行うなど、多くの方に周知してまいりたいと考えております。どうか今後とも、議員の皆さんにもできるだけ多くの方に呼びかけていただきまして、こういった村の事業があるということもご協力いただければ幸いですと思っております。

いずれにしましても、舟橋が誇れる天然温泉が湧出したわけでございますので、それを活用するということが最も私は大切なことだと思っております。そういうことで、今後ともこの事業の推進に十分力を注いでまいりたいと思っておりますので、改めて議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（竹島ユリ子君） 3番 山崎知信君。

○3番（山崎知信君） 村長は、あと3回の講義で頑張るって募集するという決意でございました。

定住促進にお墨つきをつくろうということで南砺市で行った富山大学の立瀬先生が、舟橋村で最初にやりたかったとおっしゃったことをちょっとお知らせしておきます。

共同で約700人の成年者を対象に健康状態や生活習慣などを調べて、新年度中に調査結果をまとめる。利賀地域は豊かな自然に恵まれ、子どもの健康を理由に都市部から転入する家族がおります。

一方、過疎高齢化は深刻で、65歳以上の高齢者は4割を占めております。健康志向が高まる中、利賀を第二のふるさととして定住人口増加につなげたいと期待しております。

舟橋村が目指す「日本一健康な村」の温泉美人養成講座はどうでしょうか。先着25名のところ女子が13名です。これは、温泉美人養成講座と名前をつけたからでしょうか。男性がいないのが現状です。また、村の受講者は5名です。そのうち1人だけが申し込み、あとは湯めぐち館内の身内みたいの人が講義を聞いております。あとの8名は、富山市が2人、滑川市が2人、立山町が2人、上市町が2人なんですよ。

村長、村に保健師が2名もいて、舟橋村が目指す健康な村になっていますか。私は絶対なっていないと思います。あとの3回の講座をよろしくお願ひしたいと思います。

再質問を終わります。

○議長（竹島ユリ子君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 山崎議員の再質問にお答えしたいと思います。

今議員は、今受講されている方の出身ということで、舟橋村から5名という話と、あるいはまた保健師が2名いながら、そういった指導、呼びかけが少ないんじゃないかという話でございまして、それは痛感しているわけでございまして、先ほど申し上げましたように、今後の残された講座につきましては、できるだけ受講者が増えるように配慮したいというふうに思っているわけでございます。

ちょっと余談になりますが、この「日本一」という冠が、非常に舟橋村のイメージアップをしているわけでございまして、先般、舟橋村の方が京都へ納骨のために行き、ホテルに宿泊していたところ、健康が悪くなったということで、急遽医者へ行くことになった。ホテル側では日曜日ですからなかなか危なかったんですけども、大きな老人病院があったそうでございまして、そこで診療を受けたところ、保険証を出したら、富山県中新川郡舟橋村ということで、村というのはこのことだろうと思ってその院長さんが聞かれたそうでございます。その方は、「舟橋村は日本一小さな村で、人口が3,000人で、カモシカが図書館へ来た村です」と言ったら、「私はそれを見ました」というふうに、舟橋村が京都でカモシカということで理解していただいたと、こんなありがたいことはないわけでございまして、そういったことを例に出したわけではないんですが、日本一の健康の村というのは、温泉という一つのトレードマークがあるわけでありまして、自然の恵みといいますか、そういったことを活用しての取り組みというのは、これからの行政にとって大切なことだと思っておりますし、村民にとっても大切なことだと思っております。

そういう意味で、今後とも一生懸命活用していくために努力を傾注するということを再度申し上げまして、私の答弁にかえさせていただきます。